

農家の若妻の家庭菜園に対する意識

高岡市農協生活指導員 角田美根子

高岡市農協 若妻会

はじめに

農協婦人部では1戸当り2アール30品目の家庭菜園づくりに取り組み自家野菜を利用する運動がすすめられています。しかし、実際には菜園の管理は両親や祖父母が行かない、せっかく作った野菜を若妻が利用してくれず、逆に畑に作っている野菜を知らずにスーパーで買ってきたなどの話も笑話ではなく、聞かれます。

そこで、家庭菜園の良さを見直す機会として、家庭菜園についてどういう考えをもって、どのように利用しているのかについてアンケート調査を実施しました。

1. 調査方法

- (1) 対象者と回答状況:高岡市農協若妻会会員618名,回答者数511名(回答率:82.7%)
- (2) 調査日:昭和62年10~11月

2. アンケート内容と結果

アンケートの内容と結果は次の通りでした。

- ① あなたの家には家庭菜園がありますか。

(図1)

図1 家庭菜園の有無

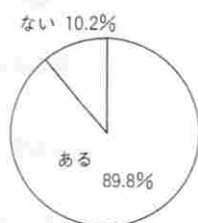
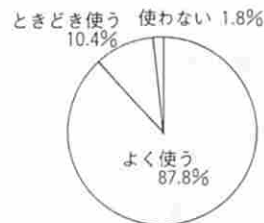


図2 菜園の手入れを主にする人



図3 菜園の野菜の利用



- ② 家庭菜園は、主にだれが行っていますか。(図2)
- ③ あなたの家庭で作っている野菜はどんなものがありますか。(表1)
- ④ 家庭でとれた野菜を料理に使いますか。(図3)
- ⑤ 収穫物は誰が台所まで運びますか。(図4)
- ⑥ 収穫物を主に料理するのは誰ですか。(図5)
- ⑦ スーパーに売っている野菜と家庭菜園との違いは何だと思えますか。(図7)
- ⑧ 家庭菜園は単に野菜を作るだけでなく、他にどんな役割があると思えますか。(表2)
- ⑨ 将来、あなたは菜園を作りますか。(図6, 表3)
- ⑩ 昔から自然農法(化学肥料や農薬を使用しない)で知っている事を家庭や近所の方に聞いて答えて下さい。(表4)
(例:マリーゴールドの横に植えると線虫がこない)

図4 収穫物は誰が
台所まで運ぶか



図5 収穫物を主に
料理する人

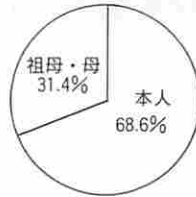


図6 将来、あなたは
菜園を作りますか

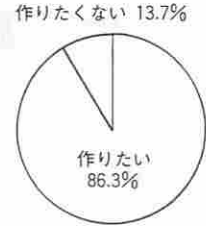
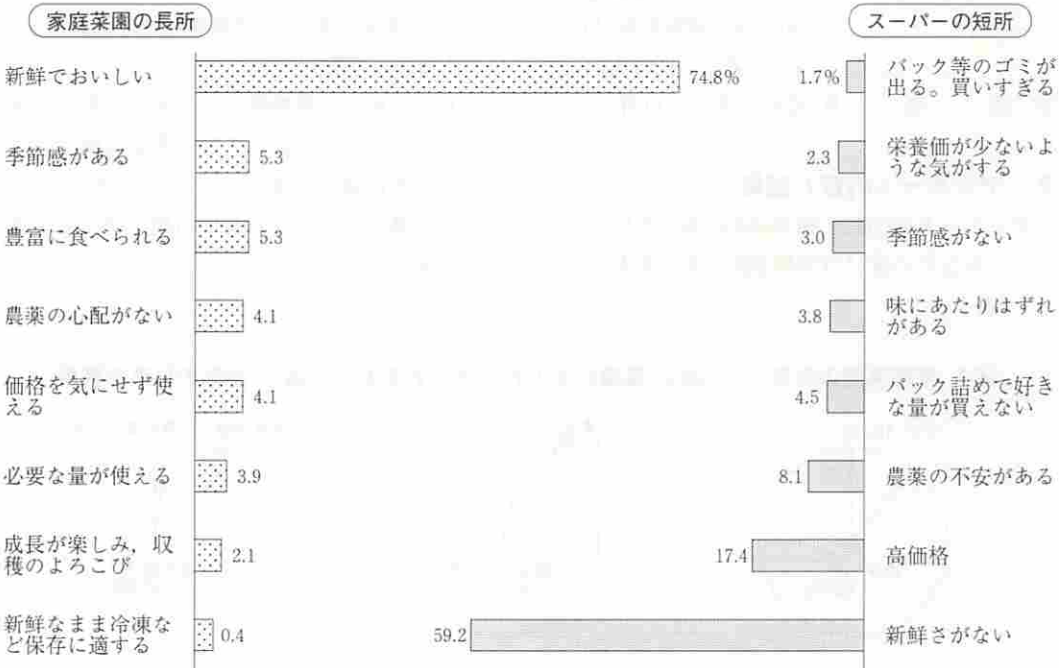


表1 あなたの家庭で作っている野菜の種類はどんなものがありますか。

有 色 野 菜		淡色野菜, いも類, 豆 類				果実類
ほうれん草	みつば	大根	長いも	みょうが	いんげん	水島柿
春菊, ピーマン	京菜	なす	まいも	にんにく	プチトマト	富有柿
人 参	からし菜	きゅうり	絹さや	レタス	オクラ	いちぢく
すぐり菜	野沢菜	トマト	ずいき	サニーレタス		くり
かぼちゃ, ブロッコリー	千筋菜	白菜	ささぎ	ごぼう		ぶどう
えんどう豆	ビタミン菜	かぶら	つる豆	うり		スイカ
チンゲン菜, 小松菜, しそ	とうがらし	ねぎ	大豆	かたうり		メロン
もち菜, にら, バクチョイ		キャベツ	黒豆	しろ菜		
人文字, ねぎ		玉ねぎ	小豆	甘うり		
パセリ, アスパラ		とうもろこし	枝豆	カリフラワー		

図7 スーパーに売っている野菜と家庭菜園の野菜との違いは何だと思いますか。



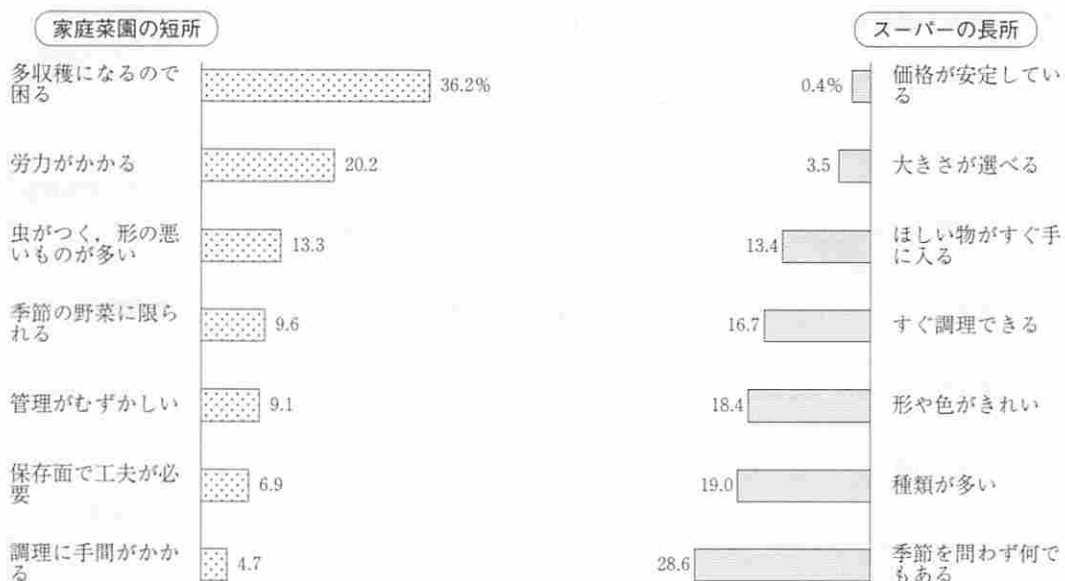


表2 家庭菜園の役割（野菜を作る以外に）

1. 健康的な効果 ① 安全である ② 家族の健康を守る ③ 新鮮で栄養価の高いものをたっぷり食べられる ④ 健康づくり、ボケ防止 ⑤ 余暇の利用	3. 経済的効果 ① 家計支出の節減
2. 農家らしさ ① 自給自足できる ② 土地の有効利用ができる。 ③ 土地を丈夫にする	4. 文化・教育的効果 ① 収穫の喜びや楽しみを知る ② 子供達に体験させられる ③ 情操教育・物を大切に ④ 家族との交流の場となる ⑤ 心が豊かになる ⑥ 生きがい

表3 将来、家庭菜園を作りたい、作りたくない理由

作りたい理由	① 安全で新鮮な野菜を手近にたっぷり食べられる ② 育てる楽しみ、四季折々食卓が豊かになる喜びがある。 ③ 土地を生かし家計支出の節約にもなる。 ④ 生きがい、趣味、人間関係が良くなる。 ⑤ 年配になったら作りたい。
作りたくない理由	① 興味もなく、好きでない。 ② 勤めもあり、時間がなく、面倒（必要なものは、買えばいい） ③ 作る技術を持っていない、知らない。 ④ 土地もなく、手あれや体が大変だから。

表4 昔から言われている栽培方法の聞き取り

- (1) 千石豆（藤豆）の横にアサガオを植えると虫が来ない。
- (2) つる豆（藤豆）の横にアサガオを植えるとアリが来ない。
- (3) 夏豆（エンドウ）を植える時にアサガオを植えると虫が来ない。
※マメ科の植物にはアブラムシが発生し易く、アサガオには猛毒のアルカロイドを含むので、殺虫効果が期待出来る。従って、マメ科の作物を栽培する時アブラムシ対策を励行する。
- (4) 毎年少しずつ場所を変えて作った方がよい作物がある。
※連作の場合は品質が悪化したり、低収量になるものがある。例：サトイモ、ナス等は連作不可
- (5) 人参は連作した方が、色がきれになる。
※人参の色は赤くなるが、病害が多発するので、その対策が必要となる。
- (6) トマトとナス隣り合わせに作るとよく育たない。
- (7) トマトの隣りにジャガイモを植えない。
※トマト、ナス、ピーマン、ジャガイモはナス科の植物であり、青枯病等共通の病害が多くなる。
- (8) 連作を嫌う野菜がある。
※ホウレンソウ、ゴボウ、サトイモ、etc
- (9) ナスは毎年植える場所を変える。
※連作障害を回避する必要があるので連作しないこと。
- (10) アブラムシには、アルミホイルを短冊に切り敷く。
※アブラムシは、反射光のあるアルミホイルには集まらないので、夏ダイコンの栽培にはシルバーマルチとして利用する。（黄色いものに多くアブラムシが集まる。）
- (11) つる豆、キュウリは毎年同じ場所に植える。
※同一場所に栽培するのに適当な作物ではない。マメ科の連作は低収量、キュウリは疫病多発となる。
- (12) 灰を撒く
※木炭等は無機質（微量要素）や炭素を含むpH10程度の強アルカリで土壤酸性の矯正に好適。
- (13) 自然の中で生息する虫は害となる天敵を自然に退治してくれる。
※アブラムシはテントウムシにより喰害され、天敵である。どんな害虫にも天敵がおり自然に害虫の発生量を調整してくれる。従って天敵を殺虫する殺虫薬は使用すべきでない。
- (14) アロエを野菜の間に植えると虫がこない。
※アロエは薬用植物で胃の薬と云われ、にがみが強烈である。節足昆虫はにがみなので喰わない。
- (15) タバコの吸いがらを置くとねずみがいたずらしない。
※タバコは猛毒のニコチンを含み、ねずみはタバコのおいも嫌うのでよりつかない。
- (16) ナメクジの多い時、ビールの残りをまいてやる。
※ナメクジは有機物や腐敗臭を好むので集まるが、ビールの残りの効果は不明である。
- (17) マメ科のものを植えると土が肥える。
※マメ科植物は空中チッソを固定し、土壤中にチッソ含有量を高めるので肥料の節約となる。
- (18) つるが地面に広がる野菜（すいか・メロン）を植えたあと同じようにつるがはう野菜を植えない。
※うり科作物には土壤伝染性病害が多量に潜伏しているので病害が多発生しやすい。（つる割れ病、疫病等）連作にしないこと。
- (19) トマトの間にニラを植えると虫が来ない。トウモロコシの間にニラを植えると虫が来ない。
※ニラには特異なアルカロイドを含むので、トマトに発病する病害、虫害の予防となる。

<p>(20) スイカ・甘うりの横にニラを植えるとつる割れがない。 ※ニラの特異なアルカロイド成分によりウリ類のつる割れ病の予防効果がある。</p> <p>(21) ウリとメロン、甘うりを植えると甘さが落ちる。</p> <p>(22) カボチャの横にスイカ、甘うりを植えると甘味がなくなる。</p> <p>(23) カボチャとスイカをいっしょに植えると皮が厚く甘くない。 ※嚴重に糖度を比較してみないと議論は出来ない。</p> <p>(24) 人糞が肥料となる。 ※昔から下肥の完熟醗酵したものは肥料として利用され効果は高い。</p> <p>(25) 堆肥を作っている。 ※畑は地温が高まり、空気が土壌中に多いので、地力低下が多い。地力増強には堆肥を完全に熟成させて施すことが特に大切で未熟な有機物を多量に施すのはよくない。(未熟な堆肥施用はダイコン等の岐根、スイカの果肉にすじが多く甘くない。</p> <p>(26) 里いものそばに落花生を植える。 ※里いものは草丈が高くなり、落花生は草丈が低い。落花生は強烈な太陽光線を好むので、里いもの近くで栽培するのは好ましくない。効果がない方法である。</p>
<p>※マリーゴールドを植えるとネダニ（ゴボウ、ニンジンの根につく腺虫）の予防になる。</p> <p>※トウモロコシの茎にアワノメイガが加害するが、ニラやニンニクを混植しておくとか害が少ない。</p>

ま と め

若妻会の活動課題として、

- ①会員の拡大
- ②健康づくりや生活の見直し運動
- ③安心できる手づくり食生活の推進
- ④Aコープマーク品の商品知識の向上
- ⑤農家ならではの良さを再認識し、家庭菜園の利用をすすめる。

の5つを掲げ、昭和61、62年度は生活見直し運動として「リフォームファッション・ショー」を開催してきました。そして昭和62年度では、上に報告したような家庭菜園に関するアンケート調査を実施し、家庭菜園の良さを見直す運動を進め、さらにこの結果をもとに、

家庭菜園をテーマにした嫁と姑のやりとりを寸劇にし、発表会を開催しました。この寸劇を通じて家庭内のコミュニケーションや役割分担の大切さ等が理解されました。また、これを機会に自分達の家で家庭菜園をもっと活用することを話し合い、菜園利用をすすめ、その体験をまとめ63年度には、「ふれあい菜園」と題した文集を発刊しました。

平成元年には、家庭菜園の共通課題としてブルーベリーの苗木を注文し、各家庭において自らが育て、収穫するという計画をたてています。栽培管理を通じ、体験した食の安全性や農業生産の大切さを今後も学習していきたいと考えています。